

少子化社会の 妊娠・出産・子育てを考える

少子化対策が喫緊の課題とされている現在、妊娠・出産・子育てへの支援の充実が議論されており、その中で重要な役割を担っているのが母子保健制度です。母子保健の発展により、妊娠・出産の安全性が飛躍的に高まり、妊産婦や新生児の死亡率は劇的に低下しました。しかし、その発展の影で何が見落とされてきたのか、何が新たな問題として発生したのか？こうした問題意識から、今までの歴史を検討するとともに、これからの母子保健の方向性を考えることを目的に発足したプロジェクトが「母子保健史研究プロジェクト」（メンバーは由井秀樹、松島京、木村尚子、伏見裕子、笹谷絵里）です。

連続市民講座「少子化社会の妊娠・出産・子育てを考える」は、このプロジェクトの活動の一環として開催されます。毎回、プロジェクトメンバー1名と、ゲスト1名による話題提供の後、全体ディスカッションを行い、市民の皆さんと妊娠・出産・子育ての現在、過去、そして未来について考えます。初回のテーマは不妊と社会的養護です。専門知識の有無に関わらず、少しでもこの問題に関心のある方のご参加を歓迎します。

2017年10月15日（日）、15:15～16:45

京都生涯学習総合センターアスニー山科実習室

プログラム

15:15～16:15

不妊対策の現在・過去・未来

由井秀樹

社会的養護（親が育てられない子どもを社会が育てる）
の現在・過去・未来

安藤藍

16:15～16:45

ディスカッション

同会場で12:45から『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』出版記念シンポジウム「妊娠・出産・子育ての現在・過去・未来」を開催します。本書は、結婚、子育て支援、出産、母子保健、避妊・中絶、不妊、出生前診断、社会的養護、養子縁組といった妊娠・出産・子育てをめぐるトピックを初学者や一般の方向けに解説した書籍です。シンポジウムでは、簡単な内容紹介の後、ディスカッションを行います。

詳しくはコチラ▼



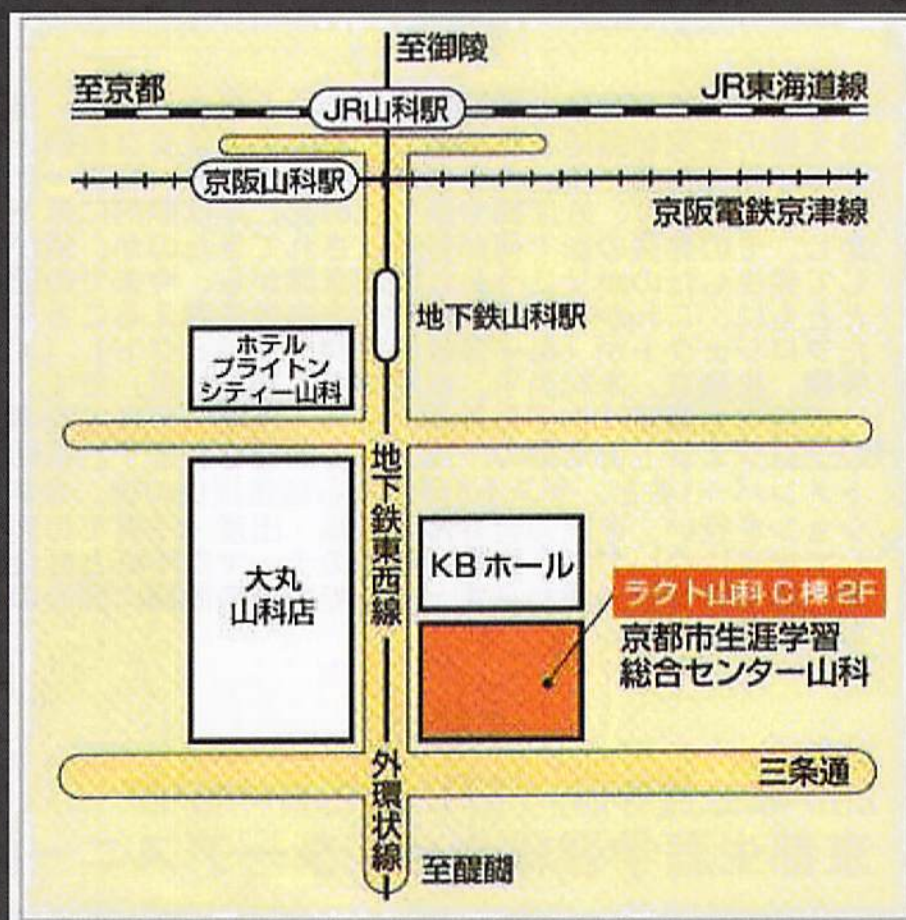
参加無料

※シンポジウム「妊娠・出産・子育ての現在・過去・未来」と合わせて飛び入り参加も歓迎しますか、資料準備の都合上、事前に
(very.blue.straw.berry@gmail.com[由井])までご連絡いたたけましたら幸いです。

会場案内

京都市生涯学習センター アスニー山科

山科駅（JR、京都市営地下鉄、京阪線）すぐ。



話題提供者紹介

由井秀樹（ゆい ひでき）

安藤藍（あんどう あい）

静岡大学・日本学術振興会特別研究員 (PD)
著書に『人工授精の近代——戦後の「家族」と医療・技術』（青弓社、2015年）

首都大学東京都市教養学部助教
著書に『里親であることの葛藤と対処——家族的文脈と福祉的文脈の交錯』（ミネルヴァ書房、2017年）